

2019年度 一橋大学大学院国際・公共政策教育部教育課程連携協議会議事要旨

1. 開催日時 2020年12月2日(水) 15:00~16:10
2. 開催場所: 一橋大学国立キャンパス マーキュリータワー3階 3302室
(Zoom併用)
3. 出席者(敬称略)
(委員)
黒澤 重徳 国立市 生活環境部 生活環境部長
高見 博 財務省 財務総合政策研究所副所長
吉崎 達彦 株式会社 双日総合研究所チーフエコノミスト
秋山 信将 一橋大学国際・公共政策大学院 教授・副院長(グローバルガバナンス)
山重 慎二 一橋大学国際・公共政策大学院 教授・院長(公共経済)
(オブザーバー)
井伊 雅子 一橋大学国際・公共政策大学院 教授(アジア公共政策)
下山 憲治 一橋大学国際・公共政策大学院 教授(公共法政)

4. 議題

- (1) 国際・公共政策教育部の現状について
- (2) 今後の取り組みについて(第4期中期計画の策定にむけて)

5. 議事要旨

【委員からのコメント】

高見委員: 官庁に勤めている関係から、海外で仕事をする。あるいは、海外関係者と仕事をする経験があり、その中でアジア諸国を中心に奨学金を使って一橋大学に留学した経験のある行政官、外交官など様々なバックグラウンドをもった人が少しずつ増えてきていると感じる。これは、英語で修士課程を修了できるコースを比較的早く設立したことが大きいと思う。また、アジアを中心とした途上国の優秀な若手実務家や行政官などの受入れ、人材育成に寄与していると感じている。今後も充実していただきたい。

産業界等との連携による授業でも最新の実務経験者のノウハウや知見を共有でき、さらに、ケーススタディ、インターンシップ、コンサルティングプロジェクトなどしっかりした機会を提供できることは、学生にとってまた産業界、官公庁にとってもたいへんありがたい内容となっている。

吉崎委員: 素晴らしいカリキュラムである。学生の就職先がどういったところか気になったが、APPPの留学生は、母国に帰ると派遣元の中央官庁等に戻るなので、こういった留学生と民間企業と交流する機会を作っていただきたい。

如水会から寄付金を受けているインターンシップ・コンサルティングプロジェクト助成金は、使い勝手などとてもいいものと感心した。

黒澤委員：一橋大学の授業にゲストスピーカーとして参加し学部学生のレベルは、優秀であると感じている。大学院生のレベルは、それ以上にとっても高いと感じている。留学生のレベルの高さにも驚かされた。特に、日本語能力、発想力、データ活用能力などが高いことに感心した。

地元の国立市役所として、留学生が困ったときに市役所等の人脈を使い地域の留学生支援団体を紹介するなどお手伝いできることがあるので市役所を利用したいいただきたい。

オンライン授業について、兼任講師として別の大学でオンライン講義をした経験から、Google のプラットフォームを使って、学生が抵抗なく授業に参加できた。一方、メンタル面に不安がある学生もいて、毎回リアクションペーパーを課していたが、それだけではうまくいかないことも感じた。

【人材育成等の要望や IPP への要望等について】

高見委員：少子化で優秀な人材確保が難しくなっている。様々な系統の学部出身学生にも、データ分析の教育、充実を図って EBPM（エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング）証拠に基づく政策立案が妥当かどうか判断できる知識とトレーニングの場を提供できるようにしてほしいと思う。

吉崎委員：説明を聞いて、すごく面白いことを行っているので一橋大学国際・公共政策大学院出身のスターが出てきて欲しい。

黒澤委員：多摩地区唯一の公共政策大学院であり、その期待は大きいと思う。世界に羽ばたく優秀な人材育成も重要だが、地域のことを知らない学生も案外いる。地域社会でいま何が起きているか地域のことを知ることは、国の機関で政策立案など働くうえでも必要なことだと思うので協力していきたいと思う。

以上